



## 部会活動 — 第1部会 — (生活自立支援福祉部会)の活動紹介

生活自立支援福祉といつても大変幅が広く、当部会では低所得世帯、障がい者世帯・生活困窮世帯など経済的自立と生活意欲の助長促進を図り、生活保護の相談や、自立し安定した生活が送れることを願い、問題を少しでも地域の支援活動に活かせるよう、学んでおります。また、市外研修も行い、学習を進めており、今年度、滋賀県立盲学校を訪問する機会を得ました。



滋賀県立盲学校は、日本で初めて、明治41年に山本清一郎氏が個人で「訓盲院」として開設され、以来104年の歴史のある、県下唯一の視覚障がい児・者の学校です。幼稚部・小学部・中学部・高等部の学校教育を行うだけでなく、弱視・全盲といった程度により、触覚・視知覚の向上や生活訓練を行われています。また、事故や病気などで視覚障がいになった社会人に対しても、訓練をされています。通学の不便な学生用には寄宿舎も完備されています。マッサージや鍼灸、指圧などの教育もされており、国家資格試験の合格率は非常に高いとのことでした。

私たちは、これからも様々な研修をつうじ、地域のお役に立てるよう、資質の向上に努めてまいりたいと思います。

(副部会長 中野記)

②「学区社協に求めること」  
自治会・民生委員・福祉  
協力員・健康推進員が各  
自治会で話し合える機会  
すでに両者が協力し友愛  
訪問を行っているという  
ところもあれば、両者で  
友愛訪問を実施するには、  
民生委員と福祉協力員の  
日程調整が大変なため、  
民生委員が単独で訪問し  
たりサロンのみの連携に留  
まっているため、情報交  
換の場が必要との意見が  
ありました。

①「自治会での民生委員児童委員と福祉協力員の連携方法」  
すでに両者が協力し友愛  
訪問を行っているという  
ところもあれば、両者で  
友愛訪問を実施するには、  
民生委員と福祉協力員の  
日程調整が大変なため、  
民生委員が単独で訪問し  
たりサロンのみの連携に留  
まっているため、情報交  
換の場が必要との意見が  
ありました。

河西学区では、平成21年度に学区小地域福祉活動の見直し以後、年1回の民生委員と福祉協力員の交流会を一步前進させるため、自治会長へ参加の呼びかけを行いました。

平成22年度は、小地域福祉活動の内容について発表を行い、参加者へ内容の確認をし、協力を求めました。

平成23年度は、小島、川中、2つの自治会が自分達の福祉の取り組みについて自治会長、民生委員、福祉協力員全員で特色ある発表となり好評を得ました。

河西学区民福自交流会

の後5グループに分かれ自治会での福祉活動について意見交換を行い、グループ毎にまとめの発表を行いました。

平成24年度は、昨年同様の自治会活動発表を河西ニュータウン、河西ハイムの2つの自治会で行い、パワーポイントでの説明や、写真展示等でそれぞれの自治会の個性あふれる発表となりました。その後のグループ交流ではサロン活動はじめ、自治会活動の問題点等に

河西学区より6名の方に出席をいただき福祉懇談会を開催しました。河西学区では、民生委員のみで行っていたひとり暮らし高齢者への友愛訪問を福祉協力員と行うことでの、サロン活動が中心であった福祉協力員の自治会での認知度があがり、両者の関係の強化から自治会福祉部会の設置に繋がった地域もあつたと発表がありました。

その後の交流会で参加者は7グループに分かれ、次の3つのテーマについて話し合いました。

③「自治会での活動等、地域における課題等」  
自治会でのサロンのメンバーがいつも同じで、参加されない人への関わりや支援方法をどうするのかの課題が出ました。

この懇談会を来年度以降も継続し福祉目標である「人の和、地域の輪」心をつなぐふれあい(愛)のあらまちづくりに」の実現にむかって邁進していきます。

## 三者交流がつなぐ地域の輪

ついても話し合い有意義な時間となりました。

以上の様な活動が三者の協働と横の繋がりの意識が強くなるきっかけとなり、ムリをせず「できることからできる範囲で」をモットーに今後も地域の福祉活動が

より一層充実したものになる事を願い、これからも是非継続していきたい事業のひとつです。

(地域福祉推進員園記)



河西ハイム

## 守山学区 福祉懇談会

を持つてもらえるよう支援が必要である。また、地域での情報をすぐにつけてはならないために福祉協力員に伝えなくしてはならないため、福

祉協力員の任期を検討してはどうか等の声があります。

平成24年9月2日、自治会長・民生委員児童委員・福祉協力員総勢62名の参加のもと、「民生委員児童委員と福祉協力員による友愛訪問活動」の内容について河西学区より6名の方に出席をいただき福祉懇談会を開催しました。河西学区は、河西学区で開催しました。河西学区では、河西学区の取り組み発表は7グループに分かれ、次に3つのテーマについて話し合いました。



(地域福祉推進員川本記)

③「自治会での活動等、地域における課題等」  
自治会でのサロンのメンバーがいつも同じで、参加されない人への関わりや支援方法をどうするのかの課題が出ました。

この懇談会を来年度以降も継続し福祉目標である「人の和、地域の輪」心をつなぐふれあい(愛)のあらまちづくりに」の実現にむかって邁進していきます。

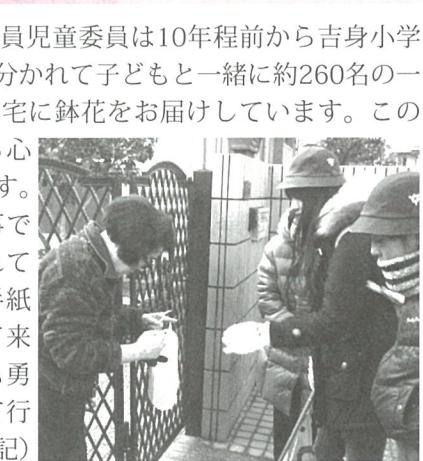
## 活動日誌

### 吉身学区 子どもと一緒に花配り



赤ちゃん訪問や友愛訪問の折、いつも「ありがとうございます」という言葉にどれだけ力づけられたんだろうか。この一言が私の心を満たしてくれる。

私は吉身学区民生委員児童委員は10年前から吉身小学校と立入ヶ丘小学校に分かれています。この花は子ども達が種から心を込めて育てた花です。



(小西記)



政治・経済・教育・医療等々。どれも変革の時だとつくづく思う今日この頃ですが「心の安定」こそ大切でないかと・・・友愛訪問をさせていただ

くたびに、健康のみならずは「おしゃべり」と「笑い」だと感じております。

中洲学区 上畠記

速野学区 北村記